

福島工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文学「おくのほそ道」	
科目基礎情報						
科目番号	0090		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気工学科 (R2年度開講分まで)		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	太宰治『走れメロス』(新潮文庫)					
担当教員	岩上 弘					
到達目標						
①作品に繰り返し現れるパターン、あるいは敢えて書かれていない空白部分といった、作品の内的構造を把握できるようにする。 ②①で把握した内容を、論理的に記述できるようにする。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (A)						
教育方法等						
概要	太宰治の小説を読み、作品世界を解釈する。					
授業の進め方・方法						
注意点	テキスト所収以外の作品も読んでみる。気に入った作品は繰り返し読むことが望ましい。定期試験の成績100%で評価する。60点以上を合格とする。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	太宰治概説	現在の太宰治、作品の特徴		
		2週	太宰治の生涯 (1)	弘前高等学校時代まで		
		3週	太宰治の生涯 (2)	終戦まで		
		4週	太宰治の生涯 (3)	戦後から死まで		
		5週	「走れメロス」	メロスの人物像		
		6週	「走れメロス」	人間不信から回復する王ディオニス		
		7週	「駈込み訴え」	ユダと「あの人」の鏡像関係		
		8週	中間試験の解説	模範解答、優秀答案の紹介と検討		
	4thQ	9週	「駈込み訴え」	商才と帰依の矛盾について		
		10週	「駈込み訴え」	ユダの知性はなぜ破綻したのか		
		11週	「富嶽百景」	冒頭部の富士山の否定		
		12週	「富嶽百景」	実人生の再生について		
		13週	「富嶽百景」	文学的再生について		
		14週	総復習	太宰文学の特徴		
		15週	テストの返却と解説	模範解答、優秀答案の紹介と検討		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用語、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	

			代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	
			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	
			情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0